

オバマ大統領就任演説の内容と 特徴的修辞技法の分析

福 田 慎 司*

1. はじめに

2009年1月20日、アメリカにバラク・オバマ大統領が誕生した。オバマはイリノイ州上院議員から、47歳にして初のアフリカ系アメリカ人として就任することとなった。オバマが大統領選を勝ち抜いた大きな要因のひとつとして、演説のうまさあげられる。2007年2月に正式に立候補を表明してから2008年11月の大統領選勝利演説までの間、“Yes, We Can” や “Change”、“Hope”などのキーフレーズをうまく利用し、聴衆の共感を呼び起こしてきた。

アメリカだけではなく日本でもオバマの演説は有名になり、そのスピーチの内容の濃さと演説の上手さゆえ、2008年11月に日本で発行された『オバマ演説集』（2008年8月に行われた民主党大会での指名受諾演説や、2008年11月のシカゴでの勝利演説などが含まれている）というCDブックは、発行部数40万部を突破する人気となっている。^(註1)

そして2009年1月に大統領就任演説が行われた。ワシントンDCの議会前のモールにはオバマの演説を聞きに約200万人の人が集まったといわれる。

* 福岡大学人文学部講師

日本でもこの就任演説は注目され、2009年1月22日には全国紙の新聞にこの演説が掲載された。ここまでオバマの演説の注目度が高くなるのはなぜか、本稿ではオバマの就任演説を映像と演説原稿を元に分析する。なお、本稿で使用した就任演説の映像と原稿は、ホワイトハウスのウェブサイトの中の 'President Barack Obama's Inaugural Address'^(註2) のものである。なおこのウェブサイトの就任演説原稿は34の段落に分けられて掲載されている。

2. バラク・オバマ

オバマの演説の内容を考える上で、彼の特殊な出自や体験を抜きにはできない。バラク・オバマは1961年8月4日、ケニア人で当時ハワイ大学に留学していた父親とカンザス州出身の母親との間にハワイにて生を受けた。両親の離婚後、一時母親の再婚相手の祖国インドネシアで生活したが、母親の教育方針によりハワイの祖父母に育てられることとなった。奨学金や学生ローンを利用しカリフォルニアのオキシデンタル・カレッジやニューヨークのコロンビア大学で学んだ後、シカゴに移り貧困地区を支援する組織でコミュニティ・オーガナイザーの職に就く。27歳の時ハーバード大学法科大学院へ進学し、アフリカ系アメリカ人としては初の『ハーバード・ロー・レビュー』の編集長となった。大学院修了後はシカゴの法律事務所に就職し、1996年にイリノイ州議会上院議員に当選、2000年に連邦議会下院議員選挙に落選するも2004年には連邦議会上院議員に初当選する。まだ連邦議会上院議員になる前の2004年7月、ボストンで行われた民主党大会でオバマは基調演説を行う。ここでこれまでの自分の特異な生い立ちを語り、そのことと絡めて「黒人のアメリカも白人のアメリカもラテン系のアメリカもアジア系のアメリカもない。あるのはアメリカ合衆国のみ」と力強く演説した。この時のオバマの演説が強い印象を残し、アメリカ全土で注目を集めることとなったのである。

2007年2月に立候補を表明してから始まった選挙選では、オバマの武器ともいえる演説で聞く人を共感させ、支持者を増やしてきた。大切な演説では、アメリカの統一—老いも若きも、黒人も白人もヒスパニックもアジア系もアメリカ先住民もゲイもストレートも全員がアメリカ合衆国民なのだ—を訴え、そのことがオバマの出自と重なり広く受け入れられたのである。

3. 内容分析

大統領就任演説でのオバマは、これまで行ってきた "Yes, We Can" や "Change" というフレーズを効果的に繰り返し聴衆との一体感を盛り上げる手法を取らなかった。それよりも、一語一語噛みしめるようにゆっくりと静かに始めた約19分の演説の間、高尚で複雑な世界観やアメリカ人の役割を抑制的に訴え続けた印象を残した。

この演説内容を以下の四つの部分に分けて分析していく。

- A. 国を再統合し、アメリカ国民として団結する
- B. 現在の危機的状況をはっきりさせると同時に、将来への希望を述べる
- C. アメリカの歴史を振り返り、先駆者達の偉業を称える
- D. 世界の国々へアメリカの意向を伝える

- A. 国を再統合し、アメリカ国民として団結する

(1) On this day, we gather because we have chosen hope over fear, unity of purpose over conflict and discord... the God-given promise that all are equal, all are free, and all deserve a chance to pursue their full measure of happiness. (paragraph 8)

(2) The question we ask today is not whether our government is too big or too small, but whether it works —. (paragraph 15)

(3) For we know that our patchwork heritage is a strength, not a weakness. We are a nation of Christians and Muslims, Jews and Hindus, and non-believers. (paragraph 22)

「今日、私たちは恐怖より希望を、対立と不和より目的を共有することを選び、ここに集まった」「すべての人は平等、しかも自由で、幸福を最大限に追求する機会を得るに値するという、神様から与えられた約束」(第8段落)「今私たちが問うべきなのは、政府が大きすぎるか小さすぎるかではなく、機能しているかどうかなのだ」(第15段落)など、これまで大統領選挙で闘ってきた民主党(大きな政府)と共和党(小さな政府)のイデオロギーを超えて、アメリカのために一致団結しようというメッセージが読み取れる。

また、「なぜなら私たちは、多様性という伝統(patchwork heritage)は弱みではなく強みだということを知っているからだ。私たちは、キリスト教徒やイスラム教徒、ユダヤ教徒、ヒンズー教徒、それに神を信じない人達による国家だ」(第22段落)と、2001年9月11日の同時多発テロ以降、顕著になった宗教間の争いを乗り越え、全ての宗教を信じている人、また宗教を信じていない人まで含めて、全員が自分のことと同様に他の人達のことを認め合っていくという主張は、オバマの生い立ちからくる経験に裏付けされた強いメッセージとなっている。

B. 現在の危機的状況をはっきりさせると同時に、将来への希望を述べる

(1) That we are in the midst of crisis is now well understood. Our nation

is at war against a far-reaching network of violence and hatred. Our economy is badly weakened, a consequence of greed and irresponsibility on the part of some, but also our collective failure to make hard choices and prepare the nation for a new age. (paragraph 5)

(2) Today I say to you that the challenges we face are real. They are serious and they are many. They will not be met easily or in a short span of time. But know this America: They will be met. (paragraph 7)

(3) But this crisis has reminded us that without a watchful eye, the market can spin out of control. The nation cannot prosper long when it favors only the prosperous. (paragraph 16)

(4) What is required of us now is a new era of responsibility — a recognition on the part of every American that we have duties to ourselves, our nation and the world; duties that we do not grudgingly accept, but rather seize gladly, firm in the knowledge that there is nothing so satisfying to the spirit, so defining of our character than giving our all to a difficult task. (paragraph 29)

「私たちが危機の真ただ中にいることはよく理解されている。我が国は暴力と憎悪の大規模なネットワークに対する戦争状態にある。経済はひどく疲弊し、それは一部の者の強欲と無責任の結果だが、私たちが全体として困難な選択を行って新しい時代に備えることができなかった結果だ」(第5段落)と、アメリカの現状を冷静な目で振り返って非難し、「私たちが直面している危機は現実である。しかも深刻なので短期間で克服するのは容易ではない」(第7段落)

とさらに厳しいことを言っておきながらも最後に「アメリカよ、このことは知っておいてほしい。危機は必ず克服できるものだ」（第7段落）と、大統領として何があっても危機を克服するという強い意志と楽観主義が込められている。

「今回の危機は、市場は注意深く見ていないと制御不能になる恐れがあることを私たちに思い出させた。富裕層にだけ恩恵があっても国は栄えないのだ」（第16段落）と2008年に始まった世界中の経済不況の原因や深刻さを述べた後、「今私たちに求められているのは、新しい責任の時代だ。それは、アメリカ国民一人ひとりが、自分たち自身、祖国、そして世界への義務を負っていることを認識することだ。その義務はいやいや引き受けるものではなく、喜んで自ら引き受けるものだ。困難な任務に自らの全てを賭けて対処することほど、私たちの心を満たし、私たちの性質を特徴づけるものはないということをしつかりと認識しないといけない」（第29段落）と、この困難な時代にもアメリカ国民として、全員の力を合わせて立ち向かっていこうという国民を奮い立たせる効果的なメッセージを伝えている。

C. アメリカの歴史を振り返り、先駆者達の偉業を称える

(1) Rather, it has been the risk-takers, the doers, the makers of things — some celebrated, but more often men and women obscure in their labor — who have carried us up the long rugged path towards prosperity and freedom. (paragraph 9)

(2) For us, they packed up their few worldly possessions and traveled across oceans in search of a new life. For us, they toiled in sweatshops, and settled the West, endured the lash of the whip, and plowed the hard earth. For us, they fought and died in places like Concord and Gettysburg,

Normandy and Khe Sahn. (paragraph 10)

(3) Our Founding Fathers — our Founding Fathers, faced with perils that we can scarcely imagine, drafted a charter to assure the rule of law and the rights of man — a charter expanded by the blood of generations. Those ideals still light the world, and we will not give them up for expedience sake. (paragraph 17)

「むしろ危険を恐れぬ者、実行者、何かを作り出す者 — 有名な人もいるが、そのほとんどは無名の働く人達である — そういう人達が長く険しい道をたどり、繁栄と自由に向かって私たちを導いてくれたのだ」(第9段落)、「私たちのために彼らはわずかな持ち物をまとめ、新しい生活を求めて海の向こうへと旅立ったのだ。私たちのために彼らは劣悪な条件で働き西部に定住した。また、ムチの痛みに耐え、硬い大地を耕したのだ。私たちのためにコンコードやゲティスバーグ、ノルマンディやケサンで戦って死んでいったのだ」(第10段落)と、アメリカの苦難の歴史、特に独立戦争のコンコードや、南北戦争のゲティスバーグ、第二次世界大戦のノルマンディ、そしてベトナム戦争のケサンなど歴史上アメリカが深く関わった戦闘地名を出し、先駆者達の苦労を聴衆に思い起こさせている。

「私たちの建国の父たちは、想像もつかないような危機に直面し、法の支配と人間の権利を保障する憲章を起草したが、これは、その後何世代もの人たちが血を流して戦うことで発展させてきた。そのような理念は今でも世界を導いており、利己主義的な目的のためにあきらめることはない」(第17段落)と、先人達が作り、必死の思いで守り抜いてくれたものを感謝するとともに、アメリカ人としてプライドを持ってみんなで守り抜いていくことを確認しあっている。

D. 世界の国々へアメリカの意向を伝える

(1) And so, to all the other peoples and governments who are watching today, from the grandest capitals to the small village where my father was born, know that America is a friend of each nation, and every man, woman and child who seeks a future of peace and dignity. And we are ready to lead once more. (paragraph 18)

(2) To the Muslim world, we seek a new way forward, based on mutual interest and mutual respect. To those leaders around the globe who seek to sow conflict, or blame their society's ills on the West, know that your people will judge you on what you can build, not what you destroy. (paragraph 23)

(3) To those who cling to power through corruption and deceit and the silencing of dissent, know that you are on the wrong side of history, but that we will extend a hand if you are willing to unclench your fist. (paragraph 24)

「今日この式典を見ている、大国の首都から私の父が生まれた小さな村までの人々や外国政府のみなさんに伝えたい。アメリカは、将来の平和と尊厳を求め、全ての国家、男性、女性、子どもの仲間であり、再び主導することに準備ができていることを」(第 18 段落) と、アメリカは諸外国と手を結び、世界の大国としてふさわしい先導的な役割を果たすことをまず宣言している。

そして、「イスラム世界のみなさん、私たちは将来に向けて相互利益と相互尊重に基づく新しい道を模索している」(第 23 段落) と、前政権で悪化してい

るイスラム教の国家に対して、前政権とは一線を画すように協調路線を打ち出している一方、「紛争の種をまいたり、自国の社会悪を欧米諸国のせいにするとする世界の指導者は知りなさい。国民はあなたが何を破壊したかではなく、何を築くことができるかであなただけを判断するのだ」(第23段落)と、一部のイスラム教国家の反米指導者に対しては、テロ行為の無意味さをメッセージとして毅然と送っている。

また、「汚職と謀略、反対意見を押し潰すことで権力にしがみついている人たちは知りなさい。あなたは歴史の間違った方にいる。しかし、もしあなたがこぶしを開こうとしようとするなら、私たちは手を差し伸べる」(第24段落)と、アメリカの基準からすれば許しがたい政治体制の国とも、場合によっては喜んで友好関係を結ぶ意向を伝えている。このようにアメリカは世界の超大国として責任を考え、武力に頼るのではなく、どんな国とも対話をしていく用意があることを強く訴えているのがわかる。

4. 修辞

今回の就任演説では、選挙戦中に見せた短いキーフレーズを演説の中にはさみ、それを聴衆と一緒にあって連呼するようなことはしなかった。アメリカの現状がいかに厳しいかを述べ、しかし先人が成し遂げてきたように我々もこの困難に耐え、未来に向けて共に努力しようという内容を洗練された技法で語っている。演説であるので、聴衆が聞いていて記憶に残るように修辞技巧が用いられている。今回の演説でよく用いられた三つの技法について述べる。

1. 首句反復

首句反復とは、複数の文章や語句を同じフレーズで始める手法である。

a. "On this day, we gather because we have chosen hope over fear, unity of purpose over conflict and discord. On this day, we come to proclaim an end to the petty grievances and false promises, ..." (paragraph 8)

b. "... the time has come to set aside childish things. The time has come to reaffirm our enduring spirit; to choose our better history; to carry forward..." (paragraph 8)

「この（大統領就任演説の）日」（a）や「この時がやってきた」（b）を繰り返すことによって、これまでとは違い、これからまさに新しいアメリカの政治が始まることを印象づけている。

c. "the God-given promise that all are equal, all are free, and all deserve a chance to pursue their full measure of happiness." (paragraph 8)

"all" という語で始まる短い文で、全て"all"を強く発音するものを三つ並べることで、文章がリズムカルになり、オバマがこの部分を特に強調したいことが分かる。

d. "For us, they packed up their few worldly possessions...For us, they toiled in sweatshops...For us, they fought and died..." (paragraph 10)

「私たちのために」を同じように三回繰り返すことで、先人がアメリカのために耐えてきた困難さを強調している。

e. "To the Muslim world, ..." (paragraph 23)

To those leaders around the globe who seek to sow conflict,..."

(paragraph 23)

"To those who cling to power..." (paragraph 24)

"To the people of poor nations..." (paragraph 25)

"And to those nations like ours that enjoy relative plenty..." (paragraph 25)

文頭に "To" を使用し繰り返すことで、アメリカ以外の国に対してメッセージを送っていることを分かりやすくしている。

2. 並列

a. "So it has been; so it must be with this generation of Americans." (paragraph 4)

b. "And we will transform our schools and colleges and universities to meet the demands of a new age. All this we can do. All this we will do." (paragraph 13)

「これまではそうだった」と「これからもそうでなければならない」(a)、また「私たちはできる」と「私たちはやる」(b)というのを、述部の部分だけを変えた形にして、違いが強調されるように対句として並べている。

c. "Where the answer is yes, we intend to move forward. Where the answer is no, programs will end." (paragraph 15)

"yes" と "no" だけを入れ替えた条件節になっているので内容が比較されや

すく、主節の内容も同様に聴衆に分かりやすくなる効果をもたらしている。

d. "... let us remember these timeless words. With hope and virtue, let us brave once more the icy currents, and endure what storms may come. Let it be said by our children's children that when we were tested we refused to let this journey end,..." (paragraph 33)

この演説の最後にあたり、聴衆に強く訴えかけたいことを "let" という語を繰り返すことで印象深いものになっている。

3. 対比

a. "At these moments, America has carried on not simply because of the skill or vision of those in high office, but because We, the People, have remained faithful to the ideals of our forebears and true to our founding documents." (paragraph 3)

b. "The question we ask today is not whether our government is too big or too small, but whether it works -" (paragraph 15)

c. "The success of our economy has always depended not just on the size of our gross domestic product, but on the reach of our prosperity,..." (paragraph 16)

今回の演説では、not ~ but = (～ではなく = である) という構文が度々使用される。選挙戦の時は分かりやすい内容を優しい言葉で言い表す演説がよ

く見られたが、今回の大統領就任演説では、難しい語も多用し演説の内容を洗練されたものにしてしているのが伺える。ただ、その分聞き手が理解しやすいように工夫しているが、その一つがこの対比の使用である。

5. まとめ

オバマの演説が本国アメリカだけでなく、日本でも広く受け入れられる理由は何だろうか。このような疑問から本稿では、内容の特徴と修辞の二つに絞ってオバマの大統領就任演説を分析した。他にも分析の仕方はあるが、演説の一番重要な部分は演説者が心から訴えたい内容をいかに効果的に聴衆に伝えるか、であると考えたからである。

内容について感じるのは、オバマは演説の中で物語を語っているということだ。先人がアメリカ建国から今日まで築き上げてきたものを「旅 (journey)」という言葉で表し、「このような試練の時代においても、先人が成し遂げてきたことを思い出そう。私たちがきっとこの危機的状況を克服できる。苦難に立ち向かって敢然と旅を続け、未来の世代に引き継ごう」と聞き手の心に訴えるのである。

また、同じフレーズを繰り返してみたり、並列で述べてみたりと、聴衆の分かりやすさを考えた修辞の利用と同時に、オバマのこの演説にかける意気込みが聴衆に伝わっている。演説中たった一度しか言い間違いがないことから相当の時間を費やして練習をしてきたことが分かるからだ。

今回は大統領就任演説を内容と修辞の観点から分析したが、他にもスピーチの仕方（デリバリー）など多様な角度から分析できるであろう。また、オバマの選挙戦の時の演説と比較することにより、この就任演説の特徴がよりはっきりすると考えられる。次回以降の研究課題としたい。

注

- 1 『CNN English Express』2009年4月号(朝日出版) P.82
- 2 http://www.whitehouse.gov/the_press_office/President_Barack_Obamas_Inaugural_Address/

参考文献

- 嬉野勝美. (2009). 『オバマ大統領就任演説 DVD Book』. ゴマブックス.
- 清水リサ. (2009). 「CNN ニュースセレクション 1」. 『CNN English Express』
2009年4月号. 朝日出版.
- 瀧澤 大・瀧澤 中. (2002) 『ケネディは「リーダーシップ」をどう語ったか』.
中経出版.
- 津山恵子. (2009). 「オバマ大統領就任演説を読む」. 『AERA English』2009
年4月号. 朝日新聞出版.
- 鶴田知佳子・柴田真一. (2006). 『リーダーの英語』. コスモピア.
- 原 雅久. (2008). 『オバマ演説集』. 朝日出版.
- 松尾弼之. (2002). 『大統領の英語』. 講談社
- 三熊祥文. (2003). 『英語スピーキング学習論』. 三修社.
- James Payne & Diana Prentice Carlin. (1994). "Getting Started in Public
Speaking". National Textbook Company.
- Kevin Ryan & Adrian Pauley. (2000). "Speaking and Debating". Phoenix
Education.
- Maryanne Lenning. (1998). "Getting Started in Speech Communication".
National Textbook Company.

Rudolph F. Verderber. (1988). "Speech for Effective Communication".

Harcourt Brace Jovanovich.

The White House Website. <http://www.whitehouse.gov/>